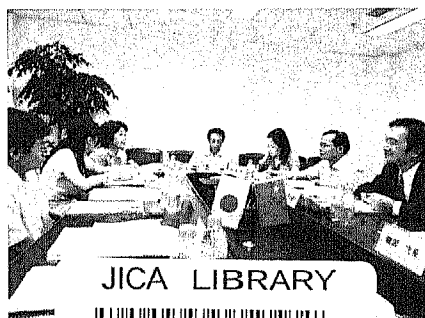


平成21年度 教師海外研修 実践報告書

【派遣国：中華人民共和国】



写真提供：教師海外研修 参加者



1199969 [5]



独立行政法人 国際協力機構
青年海外協力隊事務局
二本松青年海外協力隊訓練所

二青訓
J R

目 次

1. 平成21年度 JICA 二本松 教師海外研修の概要	はじめに／年間スケジュール	3
2. 海外研修日程表／海外研修日誌		11
3. 研修参加者による実践報告		
齋藤 央顕 教諭	／ 会津若松市立門田小学校 (担当教科：全教科)	27
佐久間敏男 教諭	／ 二本松市立下川崎小学校 (担当教科：全教科)	34
高田 昌幸 教諭	／ 南相馬市立大甕小学校 (担当教科：全教科)	62
村松 和弘 教諭	／ 柳津町立柳津中学校 (担当教科：国語科)	71
桑原 綾子 教諭	／ 福島県立富岡養護学校 (担当教科：全教科)	74
4. 帰国後研修（ふくしまグローバルセミナー2009）実施報告		81



1199969 [5]



1. 平成21年度 JICA二本松 教師海外研修の概要

はじめに / 年間スケジュール

はじめに

経済、雇用、食料、エネルギー、環境、文化……。私たちの暮らしのあらゆる場面で、国際社会との関わりなしには成り立たないことを痛感させられることが、近年はますます多くなってきています。こうした社会に巣立つ子供たちに、国際社会の中でしっかりとした営みをしていくことのできる力を如何に身につけさせることができるか。教育の現場でもさまざまな試みに取り組まれています。

教育基本法は第2条で定める教育の目標として、第5号後段で「国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う」ことを掲げているとおり、教育の現場において国際教育や開発教育を行うことは、時代の要請でもあるといえるでしょう。

JICAでは、長年培ってきた開発途上国への国際協力事業を通じて得たさまざまな情報や知見を、是非教育の現場で活用していただこうと開発教育支援事業を行っています。

そのひとつとして毎年行っているのが教師海外研修で、この研修を通じて、実際に国際協力の行われている開発途上国の現場を知っていただき、日本と各国との関係の深さや人々の交流のあり方を考えていただき、また、実際に授業で使えるさまざまな情報や材料を持ち帰っていただいて、福島での国際教育や開発教育のいっそうの充実に役立てていただくことを目的としています。

併せて、この研修に参加された教員の皆さんが中心となって、県内のより多くの学校で、より多くの先生方が、より質の高い国際教育・開発教育を行っていただけるよう、ネットワークを広げていっていただけることを期待しています。

この報告書は、今年度研修に参加された5名の教員によるそれぞれの実践報告ではありますが、子どもたちに学び取ってもらいたいテーマそのものは多くの教員の皆さんも同様に想いを同じくされているものだと思います。

是非、それぞれの実践で活かされた手法や教材を大いに参考にされて、多くの学校で教室で更なる実践に取り入れていただければ望外の喜びです。

平成21年度 JICA二本松 教師海外研修の概要

【研修対象者】

①福島県内の小学校・中学校・高校・中等教育学校・高等専門学校・特別支援学校等に勤務する教員で授業や課外活動等で国際教育・開発教育を実践している方。

(講師、臨時任用等の方も応募できるが、将来にわたって国際教育・開発教育に関わっていくことを望んでいること)

教育委員会、教育事務所、教育センター等に勤務する指導主事等で、国際教育・開発教育の実施に係る業務(実施促進、実施手法指導等)に携わっている方。

②平成21年4月1日現在、満50歳未満である方。

③所属する学校長・教頭または所属長の推薦があること。

④過去の本研修の参加者、JICAボランティア、JICA専門家、ODA民間モニター等、ODA事業の一環として海外に派遣された経験のない方。

【募集定員】 8名(実際の参加人数は5名でした)

【募集時期】 平成21年4月～5月

*募集要項は福島県教育庁を通じて県内の各学校に配布しました。

【海外研修国】 中華人民共和国

年間スケジュール

平成21年
4月16日～ 5月22日 6月27日～ 6月28日 7月25日～ 7月26日 8月3日～ 8月13日 12月11日～ 12月12日 平成22年 1月30日

参加者募集

派遣前一次研修

(※1)

派遣前二次研修

海外研修
11日間

(※2)

帰国後研修

(※3)

実践報告会

(※1) 第1日目は「開発教育指導者研修会」として実施

(※2) 詳細は11ページからの「2. 海外研修日程/海外研修日誌」を参照

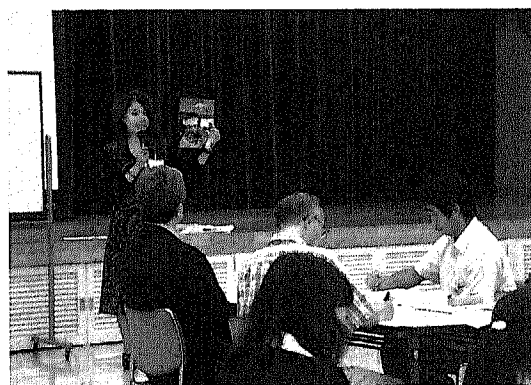
(※3) 「グローバルセミナー2009」における分科会での発表

派遣前一次研修 (第1日目は「開発教育指導者研修会」として実施)

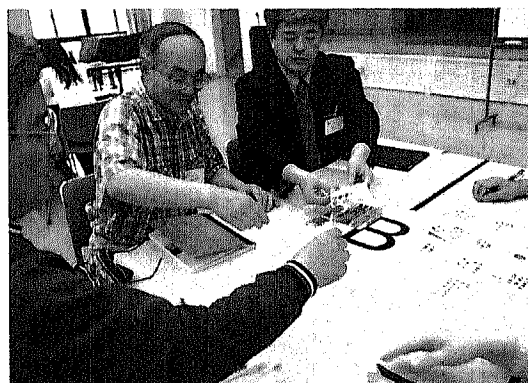
1. 日時：平成21年6月27日(土)～6月28日(日)
2. 会場：JICA二本松（二本松市）
3. 実施内容および日程

当日は教師会海外研修参加者を含め、福島県内各地から30名を超える教員や国際交流協会・NGOスタッフなどが集まり、朝から夜まで熱心に「如何に開発教育を実践するか」を学びました。

JICA教師海外研修に参加経験のある小学校教諭と中学校でも教鞭をとる県内NGO代表の実践報告に対して、北海道教育大学札幌校から駆けつけてくださった大津和子教授の手厳しくも温かみのある丁寧な指導をいただき、授業の雰囲気具体的に良くわかる、まさに実践的な研修となりました。



ファシリテーターの大津和子教授



ワークショップの様子

【1日目〔6月27日(土)〕 開発教育指導者研修会】

時間	研 修 内 容	
9:30	開会	(開会挨拶) 研修の位置づけ・主旨・背景・方向性等の説明 JICA / JICA 二本松の事業、また JICA が行っている開発教育支援事業の背景や趣旨等の説明および紹介
10:00	セッション 1	[開発教育実践事例の紹介] ・ 福島市立清明小学校 紺野富美子教諭 ・ 郡山市立郡山第三中学校 菊地恵美子教諭
11:20	セッション 2	[実践事例の分析およびアドバイス] 対象者、または校種別による実践事例を基にした、ファシリテーターによる分析・助言・アドバイスとその共有 〈講師：北海道教育大学札幌校 教授 大津 和子氏〉
13:00	セッション 3	[実践してみよう!] 開発教育手法について (ワークショップ) 〈講師：北海道教育大学札幌校 教授 大津 和子氏〉
14:40	セッション 4	[開発教育とは何か] 何故、開発教育を行うのか。開発教育で何をを目指すのか、子どもたちに何を伝えて、何を身につけさせるのかを理解する。 〈講師：北海道教育大学札幌校 教授 大津 和子氏〉
16:00	セッション 5	[県内の開発教育実践団体・関連団体紹介] ・ 福島県教育委員会、財団法人福島県国際交流協会 (FIA) 、 ・ 福島県高等学校国際教育研究協議会 (高国教) 、 ・ 福島県国際理解教育研究会 (国理研) 、 ・ グローバル教育研究会ふくしま (GEF) 、 ・ ふくしま青年海外協力隊の会 (FOCA) 開発教育委員会 等の紹介
17:00	セッション 6	[JICA (二本松) の開発教育支援メニュー] ・ JICA / JOCA の参考教材紹介・説明 ・ 中高生国際協力エッセイコンテストへの応募取組み勧奨 ・ ユース国際協力ミーティング参加勧奨 ・ 修学旅行での地球ひろば訪問勧奨 ・ 青年海外協力隊現職教員特別参加制度紹介 等
17:20	まとめ・閉会	大津和子教授総括講評、JICA 二本松所長挨拶

【1日目〔6月27日(土)〕】

※以下の日程は、教師海外研修参加者とその他の希望者のみ受講

時間	プログラム内容	
18:00	関係者交流 懇親会	
終了 20:00		

* 教師海外研修参加者ならびに希望者はJICA二本松宿泊

【2日目〔6月28日(日) 教師海外研修 派遣前一次研修】

時間	研 修 内 容	
9:00	参加者自己紹介	自己紹介 (アイスブレイキング)
9:20	派遣国 (中国) 情報・日程確認	〔任国事情および中国での JICA 事業について〕 JICA 中国事務所 元ボランティア調整員からの講話 (講師: 県国際課 主査 渡辺 憲夫氏)
10:40	過年度参加者からのアドバイス / 助言	H20 年度教師海外研修 (ガーナ共和国) 参加者 福島県立いわき総合高等学校 青木由紀子教諭 福島市立平野小学校 渡邊 太教諭
	事前準備等について	・事前準備について ・研修のイメージづくり (現地では何をするか、何を見るか、何を収集するかなど) ・帰国後の実践について (実践報告会のイメージ、どのような報告会にするか、どのような実践報告書を作成するかなど)
12:30	まとめ / 事務連絡	国内 2 次研修について、またそれまでに準備することの確認
13:00	終了・散会	

派遣前二次研修

1. 日時: 平成21年7月25日(土)~7月26日(日)
2. 会場: 第1日目 福島県男女共生センター (二本松市)
第2日目 福島市蓬萊学習センター
3. 実施内容および日程

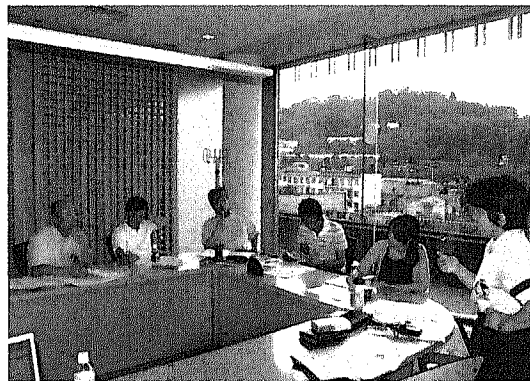
1日目は、JICA 二本松訓練所 斉藤祐巳所長の挨拶で始まり、その後福島県立医科大学の楊栢会さんによる中国語講座がありました。これは派遣されるにあたり、「挨拶や自己紹介くらいは現地の言葉で」という参加者からのリクエストにより企画・実施したものです。

今回の研修参加者5名は、全員中国渡航が初めてだったため、声調やピン音(中国語スベール)の読み方から学習、少しずつ自分の名前の漢字の読み方、住んでいる地域の読み方など、簡単な自己紹介ができるフレーズや単語を覚えることができました。

その後は、フライト情報や現在の中国事情、出入国時の諸注意など往復の渡航に関する説明を行い、昼食をはさみ、午後からは、NPO 法人福島県緑の協力隊 荒井賛理事長による中国における環境問題やそれに対する日本の植林支援活動について説明を受けることができました。

1日目最後には同行ファシリテーター日下部喜美子氏による派遣前に準備しておくべきことの確認、特に研修のテーマ、具体的なイメージを皆で作成し、共有する作業を進めました。また、研修後の報告書の編集方針や、実施報告会についても熱く議論が行われ、研修プログラム内容を踏まえたうえでの具体的な話し合いを行うことができました。

研修2日目となる26日(日)は、福島県在住の中国の皆さんを対象にした日本語教室が毎週日曜日に行われている、福島市の蓬萊学習センターで実施。まず日本語教室の通常指導を見学した後、中国出身者との懇談会を通し、前日学んだ中国語会話を実践。最初は笑われていた発音も直接指導していただいたお陰で、最終的には挨拶・自己紹介が話せるまでになりました。



研修の様子 (1日目)



福島県在住中国人との懇談会

【1日目（7月25日(土)）】

時間	研 修 内 容	
10:00	開会	・ JICA 二本松 青年海外協力隊訓練所 所長挨拶
10:10	簡単な中国語講座	[自己紹介ができる程度の中国語の学習] < 講師：福島県立医科大学 楊巧会氏 >
11:15	渡航ガイダンス	・ 旅行会社より航空券支給 ・ フライト情報、チェックイン、中国出入国時の諸注意など説明
13:00	講師講演	[福島県 NPO が行っている国際協力活動の紹介] 緑の協力隊と中国での活動について < 講師：NPO 法人 福島県緑の協力隊 理事長 荒井 賛氏 >
14:30	海外研修日程説明	・ 中国の研修内容について、日程に沿って説明
15:00	派遣前確認作業	・ 国際教育の学習領域についての検討 ・ 本研修のテーマについて ・ 各参加教員の事前準備状況の確認 ・ 出発までにすべきことの確認 ・ 中国研修中の役割分担、その他活動上の約束事の確認 ・ 実践活動（授業、課外活動、特活、他）の方向性について ・ グローバルセミナーでの発表スタイルについて ・ 実践報告会の実施方法について ・ 実践報告書の編集方針について ・ 中国語講座（自己紹介）

【2日目（7月26日(日)）】

時間	研 修 内 容	
10:00	集合（各自移動）	[蓬莱日本語教室の活動について] ・ 日本語教室の通常指導の見学 ・ 中国出身者の方との懇談会（通訳付）
午後		GEF 開発教育手法実践研修会に参加（任意）
	適宜散会	

帰国後研修（「ふくしまグローバルセミナー 2009」における分科会での発表）

※詳細は81ページからの「帰国後研修報告」を参照

1. 日時：平成21年12月11日(金)～12月12日(土)
2. 会場：JICA 二本松（二本松市）
3. 日程：「ふくしまグローバルセミナー 2009」第1日目のセッション2（15:15～16:45）にて、『近くて遠い国、隣国としての中国』と題して実施。

「ふくしまグローバルセミナー」は高校生以上の一般の方々を対象に、国際交流・国際協力・多文化共生・国際理解教育・開発教育について学ぶ参加型セミナーです。外国出身者による母国紹介や国際協力現場レポートなど20を超える幅広い内容の講座を実施します。

平成21年度は、老若男女149名の参加者が、講師や運営スタッフと共に合宿して、国際協力・国際交流への学びと想いを深めました。

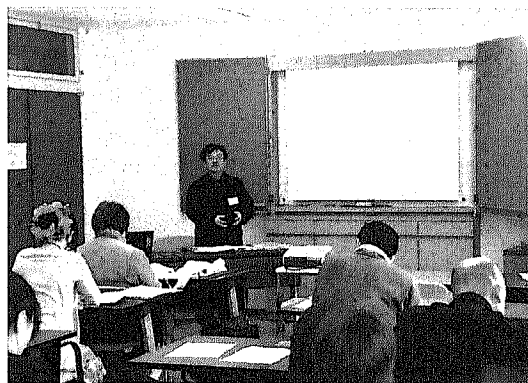
実践報告会

1. 日時：平成22年1月30日(土)
2. 会場：JICA 二本松（二本松市）
3. 実施内容および日程

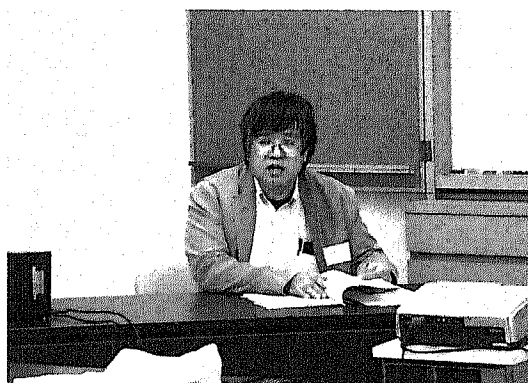
平成21年8月、中華人民共和国へ赴き、JICA ボランティアや技術協力プロジェクトの活動現場などを視察してきた教師海外研修参加者の方々は、帰国後、それぞれの持ち帰った素材を活用し、各人が所属する学校で個性ある授業を実践しました。

この報告会では、実践授業や活動をそれぞれの参加者から報告していただき、また昨年度研修に参加した山形県米沢市の中学校教諭、青年海外協力隊への参加経験のある福島県郡山市の小学校教諭による実践事例の紹介、そして福島大学人間発達文化学類の西内裕一教授より講評をいただき、最後に今回の研修の同行ファシリテーターからの報告を行いました。

※参加教師の実践報告については、25ページからの「3. 実践報告」参照



実践報告会の様子



シティズンシップ教育についてお話をする
西内裕一教授

時間	内 容	
13:00	開会	・ JICA 二本松青年海外協力隊訓練所所長挨拶 ・ 研修趣旨説明
13:15	研修国プログラム紹介	・ 参加者による中国研修行程、視察／訪問先等について
13:30	実践報告	・ 平成21年度参加者 5名による実践報告
15:30	実践事例紹介	・ 過年度参加者実践事例紹介 〈山形県米沢市立第四中学校 寺澤 恵教諭〉 ・ JOCV 経験者（現職教員特別参加者）による実践事例紹介 〈郡山市立小山田小学校 坂中 澄子教諭〉
16:20	講師講演	[教育手法専門家による講評] シティズンシップ教育としての開発教育の可能性 〈福島大学 人間発達文化学類人間発達専攻 教授 西内 裕一氏〉
16:50	まとめ	[今後の展開への期待、方向性、助言等] 同行ファシリテーターとして福島の開発教育の広がり期待すること 〈同行ファシリテーター 日下部喜美子氏（GEF）〉
17:15	閉会	



2. 海外研修日程表

／海外研修日誌

海外研修（中華人民共和國）

1. 日時：平成21年8月3日(月)～8月13日(木)〔11日間〕

2. 日程

月 日	時 間	日 程	目 的
1 日目 8月3日(月)	午 前	福島 0915 →伊丹 1025 (NH3172) 伊丹 1100 →関空 1210 (リムジンバス) 関空 1645 →青島 1805 (MU526) 青島 1850 →北京 2010	
2 日目 8月4日(火)	10:00	事務所訪問、日程ブリーフィング、 所員との意見交換	・中国におけるJICA事業及び研修日程の概要を 理解する。
	午 後	【有償資金協力】 北京市下水処理場建設事業	・北京市内における代表的な環境分野の円借款 案件を視察することにより、北京が抱えている 環境問題及びその取り組み方法等について 理解する。
	夜	国際交流基金勉強会参加の青年海外協 力隊員との交流会	・中国の地方で活動するボランティアと交流す ることにより、ボランティア活動の概要や中 国の地方の状況を理解する。
3 日目 8月5日(水)	9:00	【草の根技術協力】 紅丹丹訪問	・視覚障害者のための活動を行っている中国 NGOを訪問することにより、中国における障 害者の現状、取り組み等を理解する。
	11:30	大使館表敬（その後、市場視察）	・対中外交の概要を理解する。
	14:00	【技術協力】 安全生産プロジェクト視察	・労働安全分野の技術協力プロジェクトを訪問 することにより、中国における労働者の安全 施策にかかる取り組み現状等を理解する。
4 日目 8月6日(木)	午 前	【施設見学】 故宮博物館、市場視察他	・中国の一般市民の生活や歴史を知る。
	午 後	北京 1605 →武漢 1750 (MU2454)	—
5 日目 8月7日(金)	午 前	【有償資金協力】 湖北省植林プロジェクト視察	・円借款による植林プロジェクトの視察によ り、中国の環境問題を理解する。
	夕 方	中間振り返りワークショップ	・日程の中間段階において全体を振り返るた めの意見交換を行う。
6 日目 8月8日(土)	9:30	華中師範大学、学生との交流 (呂先生：元福島県国際交流員)	・中国の学生と交流することにより、中国の若 者の考え方や生活状況等を理解する。
	午 後	武漢→荊州→宜昌（車での移動）	—
7 日目 8月9日(日)	午 前	宜昌市内視察（市場、三峡ダム等）	・中国の一般市民の生活や歴史を知る。
	午 後	宜昌→恩施（車での移動、約8時間）	—
8 日目 8月10日(月)	8:30	【ボランティア事業】 板井隊員（看護） 活動視察（湖北民族学院）	・中国の地方で活動するボランティアと交流す ることにより、ボランティア活動の概要や中 国の地方の状況を理解する。
	10:30	【ボランティア事業】 矢部隊員（日本語 教師）活動視察、学生との交流（湖北 民族学院、蒙先生：元福島県国際交流員）	・中国の地方で活動するボランティアと交流す ることにより、ボランティア活動の概要や中 国の地方の状況を理解する。
	午 後	恩施市内視察	・中国の一般市民の生活や歴史を知る。
9 日目 8月11日(火)	午 前	恩施 1030 →上海 1320 (MU2507)	—
	午 後	福島県上海事務所表敬	
10 日目 8月12日(水)	9:00	上海天地針織服装有限公司工場視察	・中国に進出している福島県の企業の活動を理 解し、中国でのビジネスに関する現地での課 題、今後の展望等を理解する。
	午 後	浦東地区等上海市内視察	
11 日目 8月13日(木)		上海 0940 →福島 1320 (MU526)	

8月3日(月)

【移動】	9:15 福島空港発	10:25 伊丹空港着	12:10 関西国際空港着
	16:45 関西国際空港発	18:05 青島空港着	18:50 青島空港発
	20:10 北京空港着	21:15 ホテル着	

飛行機の上からは、富士山や日本アルプスも臨むことができ、「美しい国日本」を実感することができた。また、大自然の「偉大さ」と人の営みの「偉大さ」を考えさせられた。

大阪ではリムジンバスからの景色からしか感じ取る術はなかったが、陸の大工場や高層住宅、海の大きな船からは貿易都市としての大阪と世界とのつながりを感じた。

さて、いよいよ中国上陸である。青島空港で、入国審査が行われた。北京空港に着いたのは、夜の8時を過ぎていた。JICAの方々に出迎えられ、夜の高速道路をホテルに向かった。北京の運転マナーは、あまりよくなくスリルを味わいながら、高層ビルや看板を見ながら異国情緒を味わった。「Mドナルド」「Kタッキー」「Sボックス」「7イレブン」「Fマート」等、日本でも慣れ親しんだ看板もちらほら見受けられた。ホテルのチェックインは9時過ぎになったので、各自ホテル近くのコンビニで遅い晩ご飯を各自手に入れつつ、中国での1日目が終わった。



福島空港から、いざ研修へ



日本でも見慣れたチェーン店の看板

8月4日(火)

【施設訪問、研修概要説明】	日本国際協力機構中華人民共和国事務所（北京市朝阳区）
【有償資金協力】	北京排水集団高碑店污水处理場（北京市朝阳区）

〈JICA 中国事務所副所長岡田氏の話から〉

まず、JICAの概要を説明をしていただいた。JICAとは、政府開発援助（ODA）のうち、技術協力（人づくり、政策・制度づくり）の実施、及び無償資金協力の実施促進を担当する独立行政法人。中国における事業規模は、技術協力37.08億円、無償資金協力15.47億円になっている。協力援助の中心となる3分野は「環境問題など」「改革・解放支援」「相互理解の増進」だそうである。

次に、具体的な活動の一例として、四川大地震のDVDを見せていただいた。お互いに誤解が多く、相互理解がなかなか進んでいない日中間ではあるが、地震への日本のすばやい対応や死者への黙祷を捧げる救助隊の姿が中国の人々の



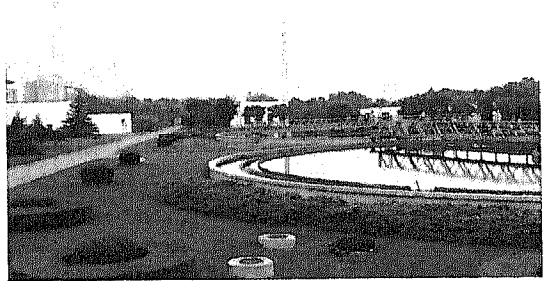
JICA 中国事務所で岡田次長さんと

心をほぐすことになった事がよく分かった。また、洞爺湖サミットの際に日本やロシア等にお礼のDVDを配付したことなどは国家としての成熟度（戦略？）を感じさせる出来事だった。

このお話を聞いて、国家としての対応やマスメディアの役割、国際理解や国際協力について授業の中で子ども達といっしょに考えてみたくなった。中国と日本という大きな関係ばかりではなく、自分とまわりの人という関係のあり方を考える絶好の教材になると思った。

〈汚水処理場の見学から〉

日本でも取り入れられているバクテリアを利用した汚泥活性化システムによって処理している。設計は、イギリスから支援を受けて、沈殿槽を○から□にしたそうである。日本からは88年に円借款の契約を結び、当時の監督は日本の企業が行い、パイプの設備等を整えたそうである。その後、スウェーデンの資金なども活用したそうである。



先進国の協力・汚水処理場

日本からの視察であったので、日本の存在や貢献の大きさを期待していた部分はあったが、日本を初めとする先進諸国の協力の上に中国の発展があることを知ることができたのも今回の視察の大きな成果である。雨水も処理して活用しているそうだが、雨が降った後の道路の排水の悪さは、測量などの建設技術、設計等の未熟な部分も露呈している。トータルに考えてアドバイスする存在が必要なのだろう。

8月5日(水)

【草の根技術協力】北京紅丹丹教育文化交流センター訪問（北京市内）
【技術協力】安全生産プロジェクト視察（北京市朝阳区）

〈紅丹丹の訪問から〉

中国全土で約1691万人の視覚障害者がいる。（日本は約30万人。）センターの創始者大偉氏は、視覚障害者の友人と一緒に語り合いながら映画を見たことをきっかけに視覚障害者のための取り組みを始めた。「心で見る映画館」は、心で鑑賞する映画の場である。「生命オンライン」「心で世界を見る」は、視覚障害者が制作に参加した中国の先駆けとなる放送番組である。制作グループの3人の視覚障害者の学生は、国の一級甲等試験にも合格し、紅丹丹の取り組みが視覚障害者に新しい世界を広げていることが分かった。



紅丹丹教育文化交流センターにて

紅丹丹では、日本のNGOとJICAが共同で「視覚障害者音声情報提供技術指導事業」が11年の3月まで進められ、日本点字図書館派遣の日本人の方も働いておられた。視覚障害者向け副音声編集技術者、録音ボランティア、録音図書・雑誌編集技術者、視覚障害者向けラジオ番組制作者の養成、録音編集ソフトの操作技術などを伝えるそうである。小さなきっかけが大きな取り組みになるすばらしさを感じた。大偉氏が、「視覚障害者も自分ができることに責任を持って行動してほしい。平等を強調したい。」と語っていたのが印象的だった。

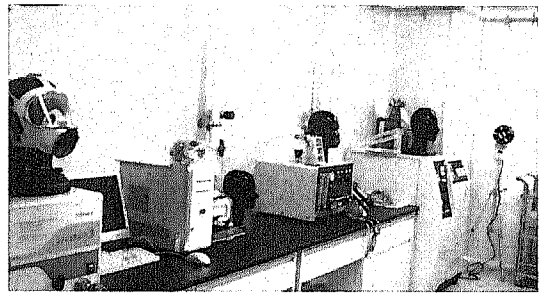
〈安全生産プロジェクト視察から〉

中国では、格安の土地賃借料、政府の優遇措置、安定した政治体制、道路網・通信手段などインフラの

整備、劣悪な労働条件のおかげで外国企業の進出が進んで、安く生産できる体制が整っている。しかし、労働者の死亡をとともう重大事故も多く発生している。

それらを解消するために安全科学研究院ではモデル地区を選定したり、トップセミナー研修会を行ったりして労働者を守る取り組みをしているそうである。それを支援しているのが、日中安全生産プロジェクトである。活動内容としては、1)安全管理基準の整備、2)モデル地区における安全生産管理の能力向上、3)保護具の検定などの能力向上、4)安全科学研究院の研修能力向上である。

マスクの検定施設を見学したが、とても専門的で危険をとともう検査でもあることが分かった。安全衛生教育は、小中学校の頃から段階的に行うことが大切であることが分かった。



マスクの性能を測定する装置

8月6日(休)

【施設見学】 故宮博物院、市場視察他 【移動】 北京から武漢へ

〈故宮博物院（紫禁城）見学から〉

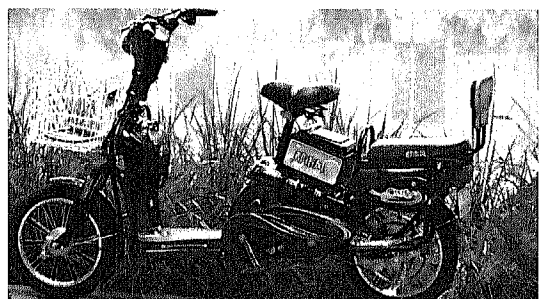
天安門広場から故宮博物院の見学をした。故宮は、明・清兩代の皇居で、中国に現存する最大規模の古代建築群である。1987年に世界遺産に登録された。故宮は、明の永樂5年（1407年）に築造が始まり、1420年にほぼ完成した。敷地面積は72万平方kmで合わせて9000以上の部屋がある。いずれも南の午門から北の神武門までに走る中軸線を挟むように東西対称するように配置されている。築造は伝統的で皇帝が最高権力者であるという封建思想に従って設計され建立されている。宮殿の高さや所在の位置、色、さらには門釘の数などにはいずれも厳しい規格があるそうである。

故宮の宮殿区は機能によって、前朝、内廷、外東路といった3大部分に分けられる。前朝は雄大な3大殿（太和殿、中和殿、保和殿）及び東西両側にある2つの宮殿（文華殿、武英殿）からなっている。前朝の宮殿は、各種重大行事と式典をあげる場所である。前朝の後ろが内廷区である。中東路の乾清宮、交泰宮、坤寧宮、皇室庭園・御花園とその東西両側にある東西六宮、養心殿、奉先殿などからなる。ここは、皇帝が日常の政務を裁き、皇后や后妃と皇子達が暮らす区域である。外東路にある寧壽宮は、乾隆帝が自らの太上皇になったのを祝って作らせたもので各種機能を備えたミニ版の紫禁城といてよい。内廷の西側、外東路と相対する場所に慈寧宮がある。ここは、皇太后と后妃達の生活ゾーンであったそうである。

大勢の中国人や観光客とともに、天安門広場、毛沢東記念館の方から見学した。中国の人々にとっても、この地は特別な場所のようで皇帝の権力の偉大さが、建物の数やその壮大なスケールから感じられた。故宮の後ろの慶山公園からの景色は、故宮全体を俯瞰する景色なので最高だとは聞いていたが残念ながらそこへは行かなかった。



天安門広場・下の方の門をくぐって中へ



電動バイクや電動自転車が多くてびっくり！

〈午後移動〉

北京空港発16:05の予定が、実際は2時間遅れの18:05になった。武漢空港に20:10に到着。予定通りにはなかなか進まない旅のおもしろさを味わった。晩ご飯は、外に出て一般庶民とともにカエルの料理を含む中華料理を食した。中国の奥深さをまた一つ感じた日になった。



勇気を出して蛙に挑戦

8月7日(金)

【有償資金協力】湖北省植林プロジェクト視察（湖北省赤壁市）
【中間振り返りワークショップ】

〈湖北省植林プロジェクト視察から〉

辺り一面緑のあるところではあったが、よく見ると木は少なく赤土の土壌で、雨が降ると土壌の流出が深刻な問題になっていたそうである。そこで JICA の有償資金協力で植林事業をすることになったそうである。総費用2537.26万元のうち、日本から1578.26万元が支払われたそうである。有償なので40年の間に返還するようになるそうである。植えられていた杉の木は11,000本。1～3月の間に4世帯家族+30人の力で植えたそうである。



プロジェクトを示す碑と生長した木々

植えて3年間は、うまく育っているか確認が必要であるという。農家の方は、植林に際して50万元借金をしているそうだが、将来苗木や材木を売ったりして利益になるのでそれから返金し始めたいと考えていた。植えるのに450元かかり、10年管理するのに2,000元かかり、12年後から12,000円で売れて、毎年利益が2,000元出てくる計算だという。植林した山は「緑の銀行」だと語っていたのが印象的だった。

現在41の県でモデル事業として植林を行っているそうである。長いスパンで夢や希望を持って取り組む姿は、大切なことだと思った。植林という活動が、土壌流出防止、木材の利活用、農家の人の意識改革、貧困問題の解決にも役立つということを考えると、複合的に発展性のある取り組みを考えていくことが大事だと思った。

〈中間の振り返りについて〉

市民生活を知るために食堂街で昼食を取る。実際の中国の人々の生活の様子を見ることができて良かった。親切な人も多く、お金を落としたことや、エレベーターの上下を教えてくれた。

日本人と中国人の意識の違いが興味深い。ヘルメット・シートベルトをしらないのは、法がないのか、安全意識の低さか、遵法意識の低さか、とても気になった。



黄鶴楼の上から見た長江大橋

中国については悪い情報だけが取り上げられる。お互いにメディアで悪い情報を流しているが、それを超えて多角的に見れるようにしたい。客観的にお互いを見れるようになると、仲良くなれる。日本人は普通を求めるので、多様な文化をそのままで受け入れられないのではないか。

異文化は受け入れる側の問題ではないか。どこの国でもいいところばかりじゃない。悪いところばかりじゃない。国民性の問題もあるが、人の個人差（家庭や地域の影響）だったり、教育の差であったり、マスメディアの問題であることも多いと感じた。

8月8日(土)

【交流会】 華中師範大学、学生との交流（湖北省宜昌市）

【移動】 武漢 → 荊州 → 宜昌（車での移動）

〈華中師範大学生との交流会〉

日本語を勉強しているだけあって、上手に話す学生が多かった。我々日本側の発表は、難しい内容になってしまったかもしれない。前もって相手の学生のことをもう少し知っておいた方が内容の程度を調整できたので良かった。難しい話よりも日本の遊びを紹介して一緒に遊んだ方が良かったかも知れない。

しかし、日本人と生の会話ができたことが学生にとっては一番の収穫になったのではないか。また、我々にとってもお昼を食べながら学生と話ができたことが、学生の普段の生活の様子を知る効果的な時間になった。中国の日本語教室の学生は、明るく社交的で、自分の考えをしっかり持って、たくさん勉強していると思った。普通のまじめな学生さんだと思った。

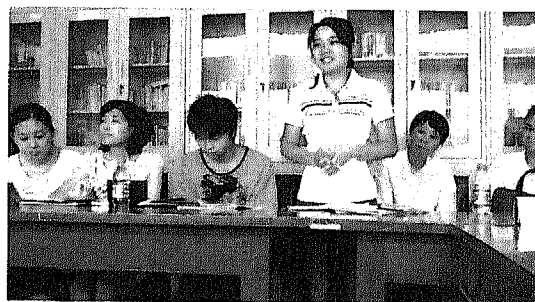
特に、聾啞学校でボランティア活動をしている学生が、「聾啞の子ども達は最初は重そうな雰囲気でした。でも精神的には楽しく生きています。一緒に遊んでいるととても楽しいです。その感動は、言葉では表せないほどです。」と語っていたのが印象的だった。教育ということを考えたときに、子どもの中にすばらしさを見つけたり、成長をとらえてあげたりすることは国が違っても共通のことなのだと改めて感じた。

交流に当たっては、お互いの文化をある程度知っておくことが大切であるとも思った。季節の行事で「中元」というのが出てきた。我々は、「お中元」や「お盆」のことと思って会話をしていたが、中国の文化もあまりよく分からなかったので、話がかみ合わないような気がした。今日の反省を湖北民族学院生との交流に生かしたい。

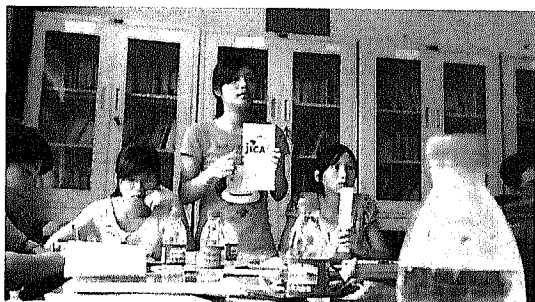
〈午後移動〉

武漢から荊州を経由して宜昌へ、車で移動した。荊州は、三国志で劉備が城を構えたところで、三国志ファンにとっては垂涎の場所らしい。その特別な雰囲気から私も「中国の横笛」と「二胡」という楽器、「孔明扇」という教材を購入した。

「二胡」については、購入先のおじさんから簡単な楽譜や手ほどきも受けた。それを参考に日本での実践に生かしたい。二胡を楽しそうにすらすらと奏でるおじさんが弾いていた曲の「北国の春」は、私の心がちりとつかんだ。



障害者教育について熱く語る学生さん



JICAの活動に熱心に質問する学生さん

8月9日(日)

【施設見学】 三峡ダム 【移動】 宜昌 → 恩施 (車での移動)

〈三峡ダムの見学〉

三峡ダムは、見学地が3カ所あり、それぞれバスに乗って移動する。最初に高台から展望できる場所へ移動した。途中、川と川をつなぎダムを越える船のための運河のようなところを見た。水位を5段階に分けて調節していき、渡すそうである。川が広いので、この国では船が重要な運輸の手段になっているようだった。



大河で大電力発電・中国の心臓！

展望台からの眺めも360度の壮大な景色だった。次の場所は、川やダムのすぐ近くの場所である。お土産屋さんが並び外貨の獲得の一翼を担っていると思った。そして最後の場所は、川を渡り対岸の川岸である。茶色い水の波が生き物のようにうねり、水の力を誇示しているようだった。

さて、最初の場所へ戻るためのバス乗り場での出来事である。我々は、比較的前の方に整然と並んでいた。ところがバスが来た途端、後ろの方から脇の方から、中国人が割り込んできたのである。バスは、あっという間に満員になり、立って乗ろうとする者も出てきた。我々、9人グループのうち2人は乗れたものの、残り7人は次のバスを待つこととなった。

しかし、バスは立っている人がいたのでは運行しないようでストップしたまま。バスの中でけんかが始まった。「グループが別々になってしまうから乗せてほしい。」「後から乗ってきたのだから、グループが別々になっても降りるべきだ。」そんなやりとりが延々と10分ぐらいさわれていたと思う。次に来たバスにも慌ただしく人が乗り込み、こちらにも我々は乗れなかった。中国人は、文字通りダーッと行って、肘や肩を使って乗り込んでいくのだ。最初のバスは、結局前の方に座っていた（もうすでに椅子に座っていた）数名が降りて、立っていた人たちがそこに座り、やっと出発した。



格差社会の象徴、高速道路

「これって絶対、道徳や国際理解の授業に使えるね。」そう確認して次のバスを待つ、残され7人組だった。三峡ダム見学は、日本とは文化が違う中国人見学にもなった。

〈午後車にて移動〉

「パラボラ、やぎ、ごみ、トウモロコシ、煉瓦、犬…」思うように進めないでこぼこ道を車で10時間。中国はでかい。道中、どんな山の中の家にもパラボラアンテナがある。ということは、BSで情報が届いているということか…。

8月10日(月)

【ボランティア事業視察】板井 JOCV (看護) 活動視察 (湖北民族学院附属病院)
【ボランティア事業視察・国際交流】矢部 JOCV (日本語教師) 活動視察 (湖北民族学院)
【見学】恩施市内視察

〈湖北民族学院附属病院視察・板井 JOCV (看護) 活動視察〉

病院の概要の発表が良かった。今までの病院の発展がよく分かり、この病院がこれからも重要な役割を果たしていく感じがした。病院のロゴや新聞作り、ホームページ、職員の輪などを経営戦略の一つにしていると思った。板井隊員が働いている現場を見るのは難しいとは思っていたが、生の仕事をしている部分を見たかった。



しかし、後ほど板井隊員に話を聞くと、中国での医療の病院での取り組みを説明する笑顔の板井さん資格を持っているわけではないので、直接医療に携わるのではなく、看護師や患者への支援に当たっているということだった。具体的には、中国の医療は家族の看護に頼る部分が多く、看護の体制として家族の負担軽減が課題だとおっしゃっていた。そのために、看護師を集めて研修会を開くなどの手立てを考えているということだった。

看護師としてというよりも医療体制の整備という大きな課題に向き合おうとしている板井隊員に頭が下がった。ただ、隊員個人としてだけでなく、日本の代表、そして親善大使としての側面も持っていると思われた。板井隊員の笑顔は、日中の友好の架け橋なのだと思う。

〈湖北民族学院日本語教室の学生との交流・矢部 JOCV (日本語教師) 活動視察〉

華中師範大学で、日本側の説明を一斉に行い、個別に交流する時間が少なかったという反省をもとに、グループに分かれて発表や交流を行った。個人レベルでの交流が図れてよかった。



9月から活動開始の矢部さん (一番)

将来、日本語の先生や日本に関係する仕事がしたいという学生が多かった。文化についても関心が高く、この学校には桜の木が2本あり、日本はいっぱいあっていい、桜前線を知っているという生徒もいた。花見の話もした。日本語の先生も多かった。先生方は小学生の頃からたくさん勉強していたそうで、勉強熱心だと思った。小学6年生卒業時、中学3年生卒業時に卒業試験があって、それで次の学校が振り分けられるそうである。中国人はしっかり勉強している。負けられない。

8月11日(火)

【移動】恩施 → 宜昌 → 上海 【施設訪問、概要把握】福島県上海事務所

〈午前飛行機にて移動〉

やってくる時は車で10時間かけて移動した宜昌～恩施間を飛行機で30分で戻ってきた。宜昌経由で上海へ向かった。

通訳の沈さんにいろいろなお話を聞いた。今までで一番おもしろかった仕事は「貧困問題プロジェクト」